



【寿会の皆さんと1・2年生合同の玉入れ】

→アジサイの花言葉には、「家族」「団らん」「和気あいあい」「辛抱強さ」等があります。

紫陽花や日ごと濃くなる色と影

「私のお兄ちゃんは小学校でやる最後の運動会です。なので、必ず総合結果で一位を取らせてあげようと思いました。私は特にチーム対抗リレーと竹取りをがんばりました。チーム対抗リレーは、バトンパスを意識しました。(中略)総合結果では一位を取れてうれしかったです。お兄ちゃんも大喜びでした。」

右は、学区合同運動会のYさんの振り返り作文である。六年生の兄を喜ばせたくて縦割り班の種目を頑張るという目標は、Yさん独自のものである。時には喧嘩をしても兄弟の仲が良いことが分かり、心が和む。

運動会は、目指す東っ子「ひ・が・し」の「①心身を鍛え、たくましく健康な子」を体現する機会であった。徒競走で一位を取った子、竹取り競技に意気揚々と臨んだ力自慢の子、リレーでチームの期待を背負ってアンカーを務めた子など、身体能力に優

れた子は人目を引く。だが、身体だけが優れているのではない。心を伴った動きにこそ、私たちは魅了される。心が鍛えられた子とはどんな姿か。まずは、粘り強い子。順位に関わらずゴールの瞬間まで手を抜かなかった子がその一例となる。次に、打たれ強い子。注意を受けたり、叱られたり、満足な結果を得られなかったりしても、前に一歩踏み出せる子である。負けを認め、次こそはと闘志を燃やしたり、改善策を提案したり、気持ち切り替えて相手の努力をたたえたりする姿がその例となる。相手の良さを素直に認め、ありのままの自分を受け止められることも、心の強さの現れである。

運動会で鍛えた心身を、今度は日常生活で、そして、授業でも発揮させたい。しかし、人前で間違えたり、負けたり、失敗したりすることを怖いと感じている子もいるだろう。そんなとき、信頼できる人が近くにいることが支えとなる。誰かが自分を助けてくれると信じている子は、間違えても、負けても、失敗しても、泣いても、繰り返し挑戦してさらに心を強くしていく。さらには、冒頭のYさんが兄を思って力を尽くしたように、自分以外の人を思うことや、人と助け合うことは、底力を発揮するエネルギーに変えられる。

日常生活で培われている家族の絆、学校生活を通して強くなる仲間の絆、様々な活動を通して確かめ合う地域の絆。こうした日々紡がれる絆は、子供の人を信じる力を強くする。怖さに打ち勝ち、内にある輝く魂に気付いて行動に移すこと、これは子供自身にかかっている。



【読書週間に読み聞かせをした絵本『いのちのまつり』のシリーズより『かがやいてる』—こうありたいと思い描けることの価値に気付かせてくれる—】